

第 10 章 鉱 害

1 概要

本市の石炭産業は、江戸時代末期、片寄平蔵らによって採掘が開始されて以来、最盛期の昭和 26 年には、83 炭鉱、2 万 3 千人の鉱員を擁し、年産 300 万トン前後の採炭量を誇っていました。

しかし、石油エネルギーの普及により衰退の一途をたどり、昭和 51 年 9 月、常磐炭礦(株)西部鑛業所の閉山により終わりを告げました。

本市では、このように広く石炭の採掘が行われたため、浅い坑道の崩落によって陥没する、いわゆる浅所陥没の鉱害が毎年発生しており、国県等の関係機関と連携して復旧工事を実施しています。



2 浅所陥没復旧工事

浅所陥没復旧工事の年度別実施状況及び、平成 25 年度に実施した浅所陥没復旧工事の施工状況は、次のとおりです。

表 10-2-1 浅所陥没復旧工事の年度別実施状況

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
箇所数	4	7	7	2	5	4	3	80	9	9
工事業費 (千円)	1,094	7,113	4,901	665	2,197	1,150	3,957	23,337	4,775	7,970

表 10-2-2 平成 25 年度 浅所陥没復旧工事

(単位:千円)

No.	所在地	被害箇所	主な内容	事業費
1	瀬戸町山下(1箇所)	農地	土工	810
2	勿来町白米鳴神①(1箇所)	農地	土工	521
3	勿来町白米鳴神②(1箇所)	農地	土工	494
4	遠野町滝字山王(1箇所)	農地	土工	996
5	勿来町酒井出蔵(1箇所)	道路	土工	989
6	田人町旅人字上平石①(1箇所)	農地	土工	704
7	田人町旅人字上平石②(1箇所)	農地	土工	2,532
8	勿来町白米広町(2箇所)	農地	土工	924